東北新報

毎月 一日 十五日 發行
編輯兼發行印刷人 佐藤 誠
福島縣平町鍛治町二三
東北新報社

金物類は
㊇ 金屋
電話 九九九

滿洲國皇帝陛下御來訪記念號

我郷土を擧げての奉迎

盟邦滿洲國 皇帝陛下には遠路恙なく我國都市東京へ今般御到着遊されたる事は誠に欣喜に堪えず玆に吾社は東北のはるかより奉迎の意を表するものである

建國以來滿三周年帝制實施一周年に過ぎざる今日皇帝陛下天禀の御徳と英明の識に由る統治の下に内外の治績大に揚り滿洲の礎は既に破乎として成るの觀がある

抑も内政方面に於ては地方分權的軍閥政治は一變して國家的王道政治に變り搾取批政の政治は倒れ安居樂業の明朗たる政治が實現して着々として自主的國家の威信を示し世界の多くの國々は今や如何にして國際聯盟の不承認決議の回避しつゝ滿洲國と握手せんかと考慮して居るかにさへ觀られておる

建國僅に三ヶ年此間に於ける新興國の發展は正に一大驚異と云ふべきである玆に滿洲國皇帝陛下を迎たるに當りその御治績の跡をたづねて御成徳の一般を偲び奉ることは吾人の欣快措く能はざるところである

昭和十年四月二十日

東北新報社

本紙の使命

一、本紙は常に郷土の伴侶となり報道批判の公正を期し社會の公器として大衆の總意を反映せしむ

一、本紙は社會正義に立脚し厭く迄破邪顯正の態度を持し斷然社會惡を排撃筆誅す

一、本紙は人生意識の向上と地方自治敎育の圓滿なる發達を圖り世界的公正なる運用に寄與せんとす

郷土を想ふ (其ノ二十二)

佐藤陽停

我郷土の中心たる平町も只今では一つの市となる否市となれるまでに人口も增し最近では二萬九千を算して居る

當平町長青沼氏も手腕を振ふは此時期に有りと云ふべく町長も亦御自身の町長時代に大平市を實現すべく日夜努力しておられる樣に思はれるが如何せん固人主義の多い當平町民且つ隣接町村民としても平町と合併して迄で平市となる事を心宜しとせぬ農民も少なく無い樣に見受けられるので尤も平町としては今日となつては充分に夏井川を境として市制をばひく事は確實に出來る事と思はれる故町長としても今の處着々と進展せられて居ると思ふ兎に角平町民は勿論我郷土たる石城郡民としては此非常時々代に際しては郡内中心たる平町の發達を計る事が第一でなければならぬ然るに石城の人種のヘキとして他人の成功を喜ばず却て他人の事業に防害すればこそ俗にソネム觀あるを誠に惜しむものである

されば吾人は各位と共に自らを戒め自を愛し生存共榮の道を開展せざるべからず玆に愚觀を述べ以て諸賢に對し御批判を乞ふものである

今や日本國は朝野を擧げて非常時の聲である故に我國教育上においても兒童の耳にまで非常時の聲がひびき渡り其れに引替ひあらゆる器物又は着物の模樣にまで非常時の文字を形つくつて居る現に當平町の花柳界では花見に際し本年の藝妓着物は非常時模樣と云ふ振込ですぞ模樣は大砲即ち源氏車にえんまく共れに蝶々の飛ぶ處は飛行機をちなみ中々の催で時あたかも當平町では滿蒙博が開催中で我郷土民の心を激勵して居る樣は正に時代の然らしむる所である今日亞細亞大陸の寶山とも云ふべき滿洲國は我國多年の深き考へより東洋の平和の爲めに築き上げたる即ち滿洲國の獨立を確認するにあたり支那露の二ヶ國との反感と亦歐米各國との反對も皆我日本國の誠意ある所を諸外國に示じ尚頗る一大問題とせる聯盟も脫退するの已むなきに至りたるもわが國としては少しも非道なる事はなく何れにしても近く諸外國としても我國の誠意は確保するものと見られておる

即ち千九百三十五六年の外國との條約關係問題は如何に解決するものであるか是れ非常時たるゆゑんである吾人は滿洲國の獨立と共に當平町として此後滿洲國と如何なる直接又は間接の關係ありや當平町としては只今の處磐城七濱を引受け交通機關として鐵道は常磐線と磐越線ではあるが余は玆に諸賢と共に考へて見たい事は磐越線を完用する事に考へて見たいと思ふ

もしも滿洲國としてわが國との交通をするに浦鹽より船出する事になれば新潟港を利用する事と思ふさすれば郡山としては是ひ共一濟の取引は目前にありと云はねばなるまいさすれば當平町としては何人も其發達を考へると同時に互に競ふて其商工業の發展と共に町民としては擧つて滿州との取引を喜ぶと同時にお互に其福利を計るとともに親切第一主義に增進を計り自巳の利益をのみ考ふことなく共榮の精神を以てするなればお互に於ても種々なる不便をはぶき第一に航路丈けでも短縮する等實に甚大ではあるまいか

平田町通り
サロン
電話三五二

平町對小名濱町との即ち平小鐵道も來る十三年度までには開通の見込なれば片濱方面としては平町を中心に海陸ともに便なる事實に甚しくたちまち東北の第一を示る位は朝飯前と思はれる然れども此れと反對に今より四十年前の樣に上野仙臺間の鐵道が設置の時平停車場をばH鐵技手としては新川方面を停車場候補地とせられしも平町地元の大地主連が即ち先祖傳來の土地をつぶすのが云々との理由の元に反對せる爲遂に今日の樣な誠に不便きはまる日本國でも珍しき處の貨物車の向ひ側に客車のホームがあつて上下ともに棧橋を渡らねば乘降出來ぬと云ふ有樣で近頃になつて始めて目がさめたものか昔の人の反對せる子や孫が今日になつて其當時の愚かさを悔いておる有樣然し其人々としても進んで平町の爲として活動するや否やは誠にあやしいものだ

何れにしても當平町は町長青沼氏を始め助役には老練なる酒井氏ありて町議としては井上翁を先鋒に野崎萩原の縣議連も居られ又中堅人物としては少壯たる關内多田井の兩氏ありて今や大平市となるべき當平町をして如何せば更生の發路たるべきかを考へて居る樣である又平町の中央に三階建の大建物の主人公酒井清氏としては新人議員として又平消防組新部長として先輩の坂本議員等とともに吉田堀氏等大に平町の此後の施制に注目されつゝある樣子尚又昨年頃より當平町名譽助役の風分ありし佐々木氏の如き逸物もあれば社會の事業をば一手にて引受けても勝ち得べき可能力を有する高橋氏あり且物堅く實質本位たる會川、荒井の兩氏あり又昨年所得稅委員たる吉村氏の如きは身は綿屋問屋たりと云ひども敎育家の大家たる鈴木町議との間柄は是又別もので吉田寅之助氏荒川淺次郎氏の二氏とともに大なる圓を圖き民政派中の三新人たるの觀あり雄辯家としては川崎先生を始め少壯議員として馬目雅治議員あり又舊家たる新川町には松崎議員ありて新川町中堅商家として又三夫婦揃ひの目出度き一家を守りつゝ松崎家の安泰を計る實業家其他根本、花澤の兩氏としては米穀商として縣下に町議員としては根本氏の如き活氣たるや頗る平町議たる花形と呼ばれる馬目武之助氏又而り染屋業者として町議の活動振も決して劣る如き事なく頗る的に人に接することが誠に賢明なる點は驚入るものがあり各其の個性を發揮しつゝ町議に參與する事なれば確かに大平市は實現して住心地よき新市が生れることであらう

平町の隣村たる神谷村を少しく書いて見る事にする

私は神谷村生れなるが故當神谷村のことに對しては其惡をばあばくが如き事は致たくない第一神谷村は神社の多い村なるが故に神の谷村でもあるまいが兎に角大字中神谷には郷社出羽神社立鉾鹿島神社の二社在とともに縣社額は充分ある名社なる故其由緒たるや誠に正し

神谷小學校や役場の場所は中神谷舊陣屋の跡にあり第一に學校及び職員諸氏の美擧或ひは否をも付け加へ御大將の役場たる村長助役收入役の傳統的美譽美談惡否の二筋をば書いて見たいと思ふ

(つづく)

◆ ◆ ◆

祝 滿洲國皇帝陛下御來訪記念號

當選御禮

神谷村々農會議員並ニ役員

神谷村農會長　中神谷　鈴木秀吉
仝　副會長　上神谷　須藤榮太郎
仝　評議員　志賀寅次郎
志賀孫次郎
中野熊之助
鈴木勘次郎
酒井長一郎
草野多博
鈴木光男
其他數名

神谷村大字中神谷區長並ニ代理區長

當選御禮

神谷村大字中神谷現村會議員　區長　佐藤新次郎
元鄉社出羽神社總務　代理區長　佐藤安藏
神谷村大字中神谷鄉社出羽神社々務所
總務　志賀庄三郎
副　鈴木秀吉
志賀熊次郎
中野長太郎
中野善吾
鈴木勘次郎
宇佐美直保
中根斧太郎
樋口鉄藏
鈴木勝三郎

貴族院議員
金成通

衆議院議員
佐藤庄太郎
比佐昌平
鈴木辰三郎

諸橋久太郎
山崎合名會社
東部電力平營業所
平電力株式會社　磐城平町
磐城產婆看護婦學校
平產婆看護婦學校
磐城建物株式會社　平町五丁目
平旅館組合
平藝妓屋組合
平料理西洋料理屋組合
平三業保健組合
石城郡神谷村々會議員一同
吉田伴吉　平鍛冶町　電二三五番

平二丁目　關內正一　電話一六番
平紺屋町五八　イヒヅカ理容所サービス理容所
なかや洋服店　平三丁目　永山小平
大黑屋勝治商店　同　電話一一六番
三井タクシー　平二丁目　電話六八五番
尼子タクシー　同　電話六四〇番
堀江工業株式會社　平町搔槌小路
色川材木店　同　電話三四一番
志賀材木店　田町大通り　電話五九三番
荒川淺次郎　平六町目
萩原申八　平田町
福島モーター商會　株式會社　平出張所長　佐藤勝美
三井吳服店　平三町目　電三八二八四
住吉屋本店　生天目源一郎
住吉屋支店　平驛前　酒井清
吉屋分店　酒井伴城

平二町目　根本時計店　電話六〇七番
平四町目　橫山彰介商店　電話九四番　六番
平三町目　大谷時計病院
平四町目　丸市屋魚店
御料理　公園茶店開店　十一屋　電話三七三番
同　鶴屋　電話一四〇番
同　山光堂（花信）　電話五五〇番
同　渡部米穀店　渡部太重
同　關內藥局　電話四〇番
搔槌小路　佐藤材木店　電話三三五番
郡山無盡會社　カジ町　平出張所
松崎長太郎　新川町　電話二九四
田邊商店　白銀町
魚敬　南町　電話六一七
世界館　驛前
野崎自動車商會　平驛前　電話二四三番
佐々木俊男　丸ほん　平三町目　電三五九
好間軌道株式會社　古鍛冶町
吉村安次郎　平研町　電二五七
石城郡神谷村役場
石城郡神谷村尋常高等小學校
井上純　神谷小學校長
中野齒科　平田町松月堂向　電話五〇七
長小次郎　新川町　電話六〇一
多田井笑次郎　大工町　電話五九一
中川材木店　同　電話五九六
神谷商會　白銀町　電話六六五
菅野勘助　土木請負業　公園茶店を開店
平館　南町
聚樂館　一町目
學生館　八幡小路　佐藤熊太郎
一德合資會社　南町　社長白石隆雄
金成國雅　鎌田町
山田忠太郎　三町目
宇佐美直保　神谷消防組頭
吉田多喜男　草野村消防組頭
須藤孝敬　神谷村大字上神谷區長